



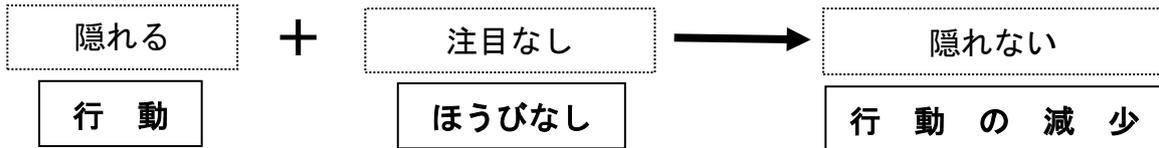
◎学校での取組② (消去と強化の例)

〈中学部 休み時間の過ごし方〉

**生徒の実態**…授業中にやるべきことが明確でないと、ふらふらと離席し教室から出て行ってしま  
うことがある。しかし、学習習熟度は比較的高く、課題が明確だとしっかりと取り  
組むことができる。また、友達や教師と関わりたいという気持ちが強く、言葉で自  
分の意思を伝えることもできる。

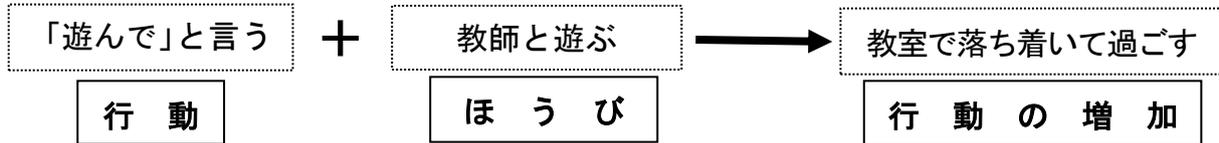
☆やるべきことが明確でない休み時間になると、物陰に隠れてしまうという行動が頻繁にあっ  
た。おそらく、手持ちぶさたになってしまい教師に関わってほしいという気持ちの表れであろ  
うと考えた。

【消去】



☆簡単な関わり方の約束について、本人と相談し教師に「遊んで」と言うように決めて実践した。

【強化】



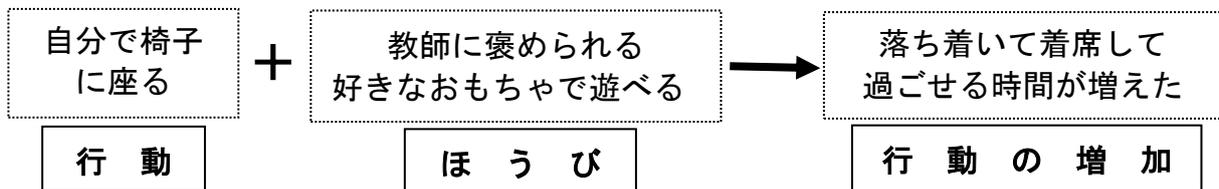
自分から教師に「遊んで」と言い、楽しく休み時間を過ごすことができると、「隠れる」という  
望ましくない行動が減少した。今では、友達にも自分から「遊ぼう」と声をかけ、教室にあるおも  
ちゃで楽しく遊べるようになった。

◎学校での取組③ (強化の例)

〈小学部 教室での時間の過ごし方〉

**児童の実態**…急に離席して教室を走り回ることがある。薬の副作用による視野狭窄があり、壁や  
物にぶつかってしまう危険性があるため、必ず見守りが必要である。

☆離席したら走り出す前に座るように支援し、自分で座ることができたら、教師が笑顔で「座れ  
たね！」と言葉掛けをした後に、児童の好きなおもちゃを渡すという肯定的なフィードバッ  
クを行うようにした。



繰り返し支援を行うことで、突発的に走り出すという行動が減少し、一人で落ち着い  
て座って過ごせる時間が増えた。言葉掛けだけで座ることもできるようになってきた。



◎子どもたちの個性は一人一人違い、その支援も様々です。今回取り上げたABAは  
支援方法の一つです。子どもに合った支援の工夫、環境作りが大切です。支援者もその環境の一  
つです。子どもにとって安心できる安全な環境を作っていくことが、子どもの成長につながる  
と思います。

参考・引用文献：「家庭でできる生活・学習課題46」井上雅彦編著

「家庭でできるコミュニケーション課題30」井上雅彦編著 藤坂龍司著